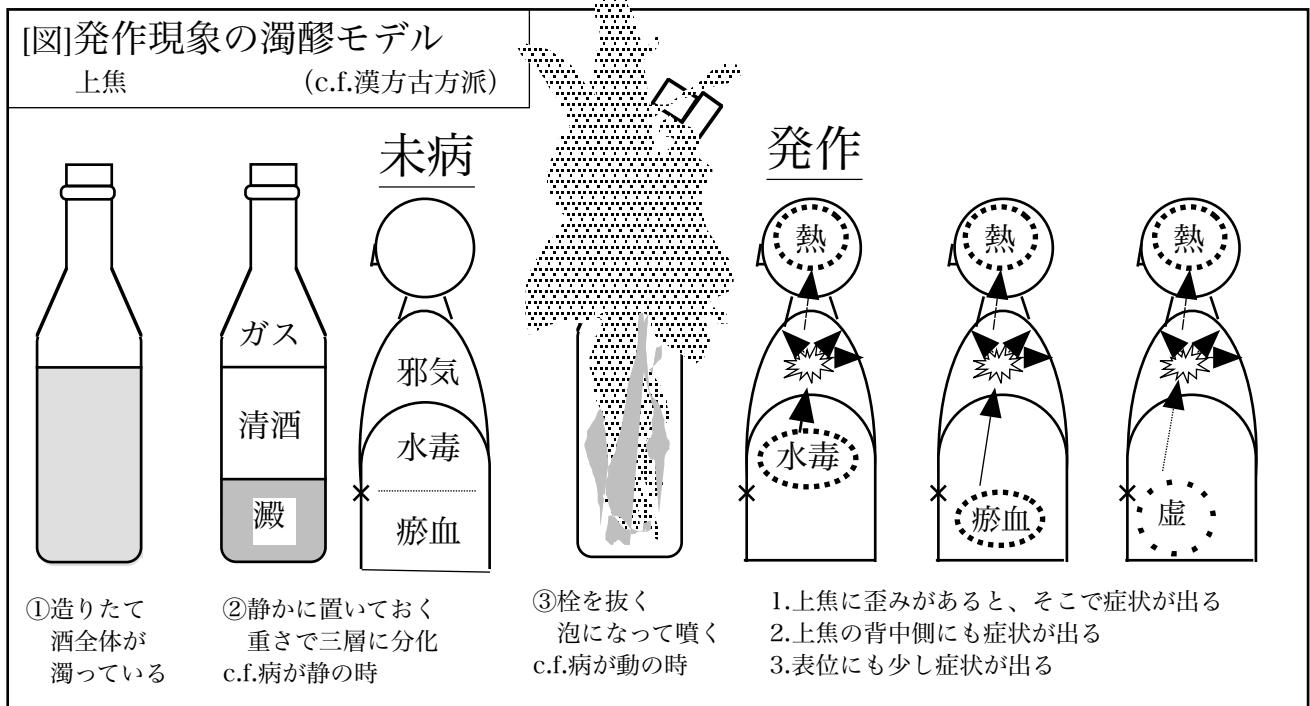


[15] 内科系急性期 2.上焦：吐き気、咳、不整脈

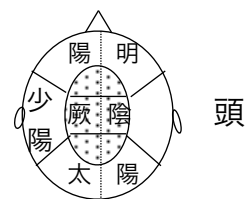


(1) 上焦の急性症状

- ① 上衝した邪気が、上焦部分の歪みを刺激し、上焦部分で激しい症状が出ている
- ② 表位にも熱などの症状が出るが、上焦の症状の方が激しい。
- ③ 上焦の横輪切り、特に背中側にもツボが出るし、上焦に関係する手陰経にもツボが出る
- ④ 上焦で動いている主なモノは邪気
- ⑤ 邪気の発生源は、中焦の水毒、下焦の瘀血、虚などで、慢性期にはそれらへの処置が必要

(2) 上焦の急性症状に対する基本処置

- ① 上焦から上で動く邪気を体の外に引き出し、上衝を鎮める
→末端への引き鍼+表位の散鍼
- ② 上焦に関係する手陰経に引き、横輪切りの、特に背中側に引く
- ③ 手早い刺鍼が大切 (邪気の波が来終わった時点で刺鍼を止める)



(3) 実技と手順：姿勢は、患者さんが取っている姿勢が基本 (背を丸めた座位が多い)

・急性期の応急処置手順：咳など体が大きく動くときは、接触鍼か提鍼とする
手甲(*1) (→*2) →手陰経.手首付近(*3) →上焦背中側(*4) →肩頸頭・散鍼→手甲

*1：頭のハチマキする辺りを触って熱い所と経絡的に関係するツボ

*2：表位の症状が残ったら、頭を散鍼した後に、手の井穴などや足三里・陽陵泉に引く

*3：呼吸器系なら列缺、吐き気なら内関、不整脈なら左・陰郄～靈道の辺り

*4：背を丸めて耐えている姿勢の背中側のいちばん出っ張った辺りにツボを探す

呼吸器系：胸椎3,4華陀経、吐き気：胸椎7,8左、不整脈：左肩胛骨下角

(☆) 応急処置後数時間以内に痛みが復活する時は、器質性病変を疑い、救急医療と連携